

## 総合計画審議会 第2回全体会 議論の概要

### 【審議第5】 基本構想『野洲市を取り巻く社会的背景』について

(「事務局提案」に基づいて、事務局から説明)

#### 1 少子化・高齢化、人口減少の時代

委員 人口減少の時代においては、企業誘致、人口増などの施策を講じなければならない。どこの自治体もそれを目指すであろうから、その点から、都市間・地域間競争の時代であることを明記すべきではないか。なお、それに当たっては、環境の保全等を充分検討していかなくてはならない。

#### 2 価値観・生活様式の多様化と変化の時代

委員 事務局案中の「余暇活動～ボランティア活動等」の箇所で、関連があいまいであり、再整理すべきではないか。

委員 他の項目かも知れないが、どこかに「人の命」という観点を入れた方が良いのではないか。

#### 3 地球環境を守り、自然と共生する時代

委員 事務局案の後半の段落は、野洲市のことを記述しているので「市の特性」の章に移すべきではないか。その代わりに、地域の自然を守るという視点が必要だと考える。

委員 京都議定書の記述があるが、議定書があるから取り組むのだというニュアンスに見えてしまう。その記述の前に、市としての地球温暖化について問題認識している点をしっかり記述すべき。また、脱化石燃料への取り組みという表現よりも、すべての温室効果ガスの排出抑制という説明の仕方の方がよいと考える。

委員 自然の保全について、個人の土地に係る問題はどうか認識すべきか。また環境問題や社会システムの変化に関わって、一人ひとり自己責任をもつべきことが必要とされる時代であることを明記すべきだと思う。

#### 4 地方分権と協働の時代

委員 税収減について、平成17年度の状況と今後の見通しはどうか。

委員 計画策定や立案にあたって、財政的裏付けが必要であり、バラ色の絵を書くだけでは不十分だと考える。

#### 5 安全と安心が求められる時代

委員 各地区のコミュニティセンターを防災の情報センターに活用できないか。

## 6 情報ネットワーク化の時代

(特になし)

## 7 産業を取り巻く環境変化の時代

委員 第1次産業における自然との共生の重要性のようなことを記述した方が良いのではないかと。

### 総括

会長 人が中心の社会であるという大きな認識が必要だと思う。項目のフレームについては、この7項目で了承いただけたものと思う。あと記述内容の精査を再度行政内部のプロジェクトチームで実施されたい。

### **【審議第6】 基本構想『野洲市の特性』について**

(「事務局提案」に基づいて、事務局から説明)

#### 1 沿革・地勢

委員 自然のテーマパークともいえるほど野洲市の自然はすばらしく、そのことがよくまとまっていていいと思う。ただし、いいところをさらに伸ばすという視点と、市民や市外の人に対して野洲の魅力をもPRしていくことが今まで欠けていた部分であり、まちづくりの課題にも反映させてほしい。

#### 2 人口・世帯

委員 国の将来人口推計は大きく減少していく中で野洲市ではこれまでは増えてきたが、これから本当に大丈夫なのかと思う。今後人口の見通しについて詳細な議論はあると思うが、マイナス要因も考慮しておく必要があるのではないかと。

#### 3 土地利用・産業

(特になし)

#### 4 これまでのまちづくりへの取り組み

委員 野洲市が他のまちに比べて取り組みが進んでいるところはどういうところか、その結果の実績がどこまで進んでいるかが見えていないのではないかと。また、第4章の課題との関係性を考え、長所は特性の章で記述し、短所は課題で記述するなどの書き分けが必要だと思う。

委員 野洲市には障害者福祉施設が立地しており、市でも重要な施策としているので、特性として取り

上げてはどうか。人権と環境だけが取組みの実績ではないのではないか。

委員 環境マネジメントシステム、環境基本条例、環境基本計画などは、今やどこでも取り組んでいるものである。それよりも野洲市では新エネルギーへの取り組みやスマイル市などの協働の取り組みとリンクした『野洲モデル』ともいわれる先進的な取り組みがあるので、そうしたことを強調すべきだと思う。

委員 里山は保全だけでなく活用の視点もあるのではないか。

委員 ISO14001は実践的な取り組みが数多く含まれていて有用であると考え。市民にも普及が必要ではないか。

委員 協働で行われている公的サービスの具体例は何か。

事務局 福祉面でNPOが独自のサービス提供、市事業の受託等で活躍している。

委員 コミュニティセンターの整備など、住民自治を高めている面も取り上げてはどうか。

## 5 市民の意識

委員 市民は何を望んでいるのかについて記述した記述は、課題の章に入るのではないか。整理が必要だと思う。

委員 「山川草木」という言葉を用いると野洲の自然というイメージが湧いてくるのではないか。

委員 自然が豊かであることは大切だが、保全ばかりを本当に市民が望んでいるのか、アンケートの内容のみを信じていいのか疑問である。自然の保全ばかりでなく、人を呼んでくる手法ではないわゆる内なる活性化のような視点も必要だと考える。

### 総括

委員 子どものこと、子育て、教育などについては、あまりふれられていないので、課題の章で十分に記述すべきだと考える。

会長 いいところだけではなく、弱い面の特性があってもいいと思う。ただし次の課題の章との書き分けが必要。基本的には了解を得たと思うが、事後、行政の方で、4、5の記述は特に精査する必要があると思う。福祉面も記述する必要があると思う。

## 【審議第7】基本構想『まちづくりの課題』について

(「事務局提案」に基づいて、事務局から説明)

### 1 豊かな人間性をはぐくむ

委員 スポーツ・文化について、若干ふれているが少ないのではないか。特にスポーツは県下でも先進的であり、もっとふれてほしい。

委員 少子化対策のためにも、出産しやすい環境づくり、若い人が住みやすい環境づくりが必要だと考える。そういう記述をどこかで入れてほしい。

委員 野洲市では若者がスポーツや野外活動等に積極的に取り組んできており、それにより、人間形成がなされてきたと考える。児童虐待などマイナスイメージだけではなく、それ以上に若者が元気で暮らしているまちという印象がある。それをさらに進めることで、安心な子育てにも繋がっていくものとする。

委員 人権問題の取組みについて、全国的に弱まっているように思う。なお、「無関心層の拡大」の根拠などについては、明示すべきではないか。

事務局 ご指摘の根拠については、人権問題に関する意識調査で、「わからない」「無回答」が増えている点である。

委員 女性の社会進出が遅れていることにより男女共同参画社会の実現が求められているので、女性の進出により共同参画社会の実現が求められているという最後の段の表現は矛盾する印象がある。

## 2 人々が支え合い、安心なまちをつくる

委員 かかりつけ医の普及も重要だが、病診連携（総合病院と個別医院との連携のこと）が重要ではないか。

委員 南海・東南海地震等の大規模災害についての記述が抜けているのは不自然に感じる。想定マップなどを市民に対して明示していくことが重要であり、明らかにすることで市民の意識は高まっていくと思う。

## 3 美しい風土を守り育てる

委員 自然景観、集落景観、街並み景観、それらを繋ぐ道筋景観などの景観面や、居住環境の整備などについて、それらを良くしないと人も企業も来ない。この点重要な要素であるので、もう少し具体的に書いた方がよいのではないか。

委員 「全市民が環境負荷の少ない～」の部分について、具体的に、ゴミの少ない買い物、ゴミを出さない生活など、しっかりした記述をすべきではないか。

委員 最後の段落で、現在の取り組みレベルに応じた記述をすべきではないか。野洲市は全国でも先進的・模範的で、この記述では足りないと思う。全国の自治体をリードしていくためにも、もっと高いレベルを目指すべきではないか。

委員 水や土壌に対する環境負荷を下げることが大切であるとする。

## 4 地域を支える活力を生み出す

委員 農業そのものの発展のための農地活用という面だけでなく、団塊の世代のセカンドライフの問題などとも関わって、自然とのふれあい等多面的な農地活用についても記述してはどうか。

委員 「野洲市の特性」の章の土地利用・産業での記述に、商業集積が進んでいない点にふれていたが、ここでそれを課題として取り上げるべきではないのか。

委員 三上山の活用、整備について地域との協働で進められていることを記述すべきと思う。

委員 観光客は180万人だが、来る人が多いだけでなく消費に繋げる策が重要。

委員 市街地が拡大しているが、転居する人もいて空洞化している所もある。市街地の活性化が必要。

委員 野洲市の二つの現状はどうか。

事務局 野洲市としては不明である。ただ全国的な傾向から推測して例外ではないと考えている。

## 5 うるおいある快適なまちをつくり、にぎわいをつくる

委員 街中の散策、サイクリングなどが楽しめるようなまちづくりについても記述してほしい。

委員 また高齢化の進展により独居化が進み、仲間を求めて外へ出て行くことになる。昔は道路が交流の場であったが、今後からはそういった場所を確保していく必要があると考える。

委員 高齢者の憩い、ふれあいの場の確保について、記述してほしい。また、自転車道や散歩道の整備について記述してほしい。

委員 交通バリアフリーを進めているが、民間と協調してユニバーサルデザインという視点を持つことに取り組む必要がある。

委員 交通利便性が良いという市の特性の認識がある半面、渋滞の問題により他所に転居する人がいる地域がある。この点は課題認識が必要ではないか。

委員 地域格差が出ている点を課題認識する必要がある。

## 6 市民と行政の協働によるまちづくり

委員 「協働」が行政サービス手法のひとつであることと、市民への権限の移譲が必要であることを説明し、官民の役割・責任分担を明記することが必要ではないか。

委員 「協働」は難しい。公的サービスを担うこと、個人でもできること、いろいろなレベルがある。

### 総括

委員 財政見通しの項を起こして記述すべきではないか。

委員 横文字が多く読みづらい。また「求められている」という主体の曖昧な表現が多く改めるべき。

会長 全体的には了承いただいたものとする。なお、指摘のあった横文字、曖昧な表現や、特性と課題の書き分け、野洲市の進んでいる点の記述については、事後行政のプロジェクトチームなどで対応してほしい。

### 副会長総括

副会長 教育は人づくり。将来の野洲市に大きく影響する。教育が全ての基点である。その観点が少し薄いように感じる。本日も大変に熱心な議論をいただき、実のある会議であったと感謝している。